

平成26年 9月

井上千恵 学位論文審査要旨

主査 梅北善久
副主査 原田省
同 小川敏英

主論文

Apparent diffusion coefficient (ADC) measurement in endometrial carcinoma: effect of region of interest methods on ADC values

(子宮体癌における見かけの拡散係数 (ADC) 値計測:ADC値における関心領域法の影響について)

(著者:井上千恵、藤井進也、金田祥、福永健、神納敏夫、紀川純三、原田省、小川敏英)

平成26年 Journal of Magnetic Resonance Imaging 40巻 157頁～161頁

参考論文

1. Correlation of apparent diffusion coefficient value with prognostic parameters of endometrioid carcinoma

(類内膜腺癌における見かけの拡散係数値の予後因子との関連)

(著者:井上千恵、藤井進也、金田祥、福永健、神納敏夫、紀川純三、原田省、小川敏英)

平成26年 Journal of Magnetic Resonance Imaging 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、MRIの拡散強調像において、子宮体癌のADC値を4つの異なるROI法にて測定し、読影者間の一致率と、測定結果（最小ADC値、平均ADC値）に対し、ROIの設定並びに形態が与える影響を検討したものである。その結果、読影者間の一致率はROIの形態に影響を受けないこと、最小ADC値と比較し平均ADC値によればROIの形態に影響を受けにくく、安定した結果を得ることができることが判明した。本論文の内容は、子宮体癌のADC値測定においてROIの形態が与える影響を詳細に検討し、MRIによる子宮体癌の評価法の基本となる重要な点を明確化し、明らかに学術水準を高めたものと認める。